

共生社会推進タウンミーティング 2024 概要

〔開催地区および参加者数〕

今年度は、県内4地区で、合計80名にご参加いただきました。

(福井)8月24日(土) 生活学習館 23名 (奥越) 8月25日(日) すこやか 12名
(丹南)8月25日(日) サンドーム福井 14名 (嶺南)10月13日(日) パレア若狭 31名

〔いただいたご意見〕

○県民理解

- ・障がいのある人が地域で共生するため、行政が積極的に現場にかかわってほしい。
- ・県共生社会条例の認知度が低い。
- ・12月の障害者週間に、県内でライトアップを行ってはどうか。
- ・これからの社会は、健常者に障害者を近づけるのではなく、障害者から健常者が学ぶという視点が大切。
- ・一般県民にも障がい者の特性等がわかるよう、ハンドブックを作成し配布してほしい。
- ・国土交通省で、発達、知的、精神障がい者がパニックを起こしている時のマニュアルが作成されているので、参考にしてほしい。
- ・県が障害者差別解消法の啓発動画に手話を付けたことを今回知った。もっと周知すべき。

○声の反映、当事者の参画

- ・障害者社会参加推進センターが当事者の要望を集約する必要があるのでは。
- ・タウンミーティングで県にぶつけるだけで、当事者同士で解決しようとしていない。

○福祉教育・交流

- ・「共生社会に関する出前講座」は続けてほしい。
- ・発達障がいについても知ってもらいたい。

○スポーツ

- ・6月21日に県主催の障害者スポーツ大会に参加したが、バス駐車場から体育館入口まで距離があつてつらかった。以前は体育館の前までバスを入れてもらえたと思う。
- ・県営体育館の中に引き出しのような座席があるが、非常に不安定。また、特に下りるときに段差が見にくいので、改善してほしい。
- ・新しく整備されるアリーナには、字幕等で避難の必要性を知らせてくれる電光掲示板などを整備してほしい。災害時に館内放送を流されても、ろう者は避難できない。
- ・新アリーナにおいては、車いす席を1か所に集約しないようにしてほしい。車いすユーザーも、1階席や2階席など、場所を選びたい。
- ・新アリーナが完全にできあがる前に、このように意見を伝え、当事者が参画できる体制を整えてほしい。

○文化芸術活動の充実

- ・障がい者の作った商品や作品を見る機会を、嶺北だけでなく嶺南にも設けてもらいたい。

○福祉・医療を支える人材確保

- ・グループホームを運営しているが、人材確保が非常に難しい。若者が戻りたくなるような魅力的な地域づくりをお願いしたい。
- ・福祉施設は深刻な人材不足。中高生に福祉の世界に飛び込んでもらえるような施策を打ってほしい。

○障がい児の地域療育体制

- ・重症心身障がい児者は、自分では声を上げることも、手足を動かすこともできないので、目を離すことなく丁寧に見守っていく必要がある。日中活動の支援が長期的に必要。
- ・放課後デイサービスが増えているが、内容をよく審査し、安易に増やさないでほしい。急に閉鎖されると利用者が困る。

○高齢化対策

- ・一般の介護施設での障がい者の受入れ態勢の整備をお願いしたい。慣れた街に住み続けたいと思っている。

○難病患者支援

- ・県立病院に「てんかん科」を設置し、専門の医師を配置してほしい。

○精神科医療体制

- ・嶺南には精神科が少なく、新規で入院することが難しい実態がある。

○障がいに配慮したまちづくり

- ・「県福祉のまちづくり条例」が古い。民間事業者は、その古い内容だけを守っていればよいと思っているのではないか。
- ・福井駅前再開発で新たにできた施設に、大人がおむつ替えできるトイレはほとんどなかった。必要としている人も、出かけたと思っていることをわかってほしい。
- ・障がい者アート展を見に、大型リフト車で県庁や県立美術館に向かったが、近くに駐車できず、降車後の移動が雨や雪でとても大変だった。
- ・県庁地下1階の車いすが古びている。また、車いすは、ハートフル専用パーキング（身体障がい者等用駐車場）付近に置いておいた方が便利では。
- ・施設受付を閉めて、連絡用の電話だけを置く施設は、ろう者への配慮が欠けている。
- ・越前たけふ駅から武生駅まで、市がバスを出しているが、車いすだと乗車できない。
- ・道の駅越前たけふには、車いす駐車場が1箇所しかない。また、トイレに至るまで引き戸があり、車いすユーザーには使いにくい。
- ・最近、路線バスの乗車拒否が増えているように感じる。バスやタクシーの乗務員研修会の開催を検討してほしい。

○防災対策

- ・親に何かあったときや災害時のために、障がい福祉施設や県が、障がい者個人を把握してほしい。

〔当日アンケートより〕

○思いやりのある言動、行動など

- ・普段利用していた理容店は入口が階段の上であり、スロープを持参して利用していたが、改装を考えてくれ、車いすで来店するにはどうすればよいかとアドバイスを求められた。実現までに時間はかかったが、現在は入り口を改装して利用しやすくなった。
- ・喉頭摘出で食道発声にて話している。声が違うので役所等で職員がいろいろ気を使って対応されているなあと感じることが良くある。
- ・県の防災訓練で避難所に手話通訳の人がいた。実災害時にも機能できると…
- ・車いすを利用するようになり、今まで感じなかった「人のやさしさ」が見えるようになったが、常に「人の迷惑にならないか」と考えてしまい、つい外に出るのが億劫になる。

○過去に体験した差別など

- ・「障がい者」のイメージが悪く、障がいを持っていると言ったら嫌がられる。
- ・まだまだ、お店で迷惑そうな顔をされることがある。
- ・列車のホームに車いすが下りられず、折り返して下りたことがあった。
- ・障がい児施設の子が公園に遊びに行くと、大人たちが遠巻きに見て、そのまま去っていた。
- ・駅に、車いすでの利用とスロープでの介助を求めたら、事前に電話連絡するよう言われた。外出は急遽決まることもあり、障がい者の行動の自由を制限する差別だと思う。
- ・公共交通を利用するとき、「合理的配慮」の認識の違いで、車いす固定や利用拒否など、トラブルがよく発生している。
- ・バスを利用したとき、きちんと障害者手帳を見せたのに、「きちんとみせろや」と威圧的な声、態度で怖かった。
- ・障がいをもった人はお情けで仕事を与えてもらっている、能力がない人間は給与があたりなくて当然、だから普通の枠で仕事をしなさいと言われた。
- ・ラーメン屋に入ったら、注文した際「忙しいから待ってほしい」と言われた。
- ・バスを下りるとき、ICカードで支払おうとしたら後回しになり、電車に乗り遅れた。
- ・県立体育館で手すりがないと下りるのに怖い。作ってほしい。
- ・グループホーム設置の際(H30)、地元住民の反対運動で開設できなかった。
- ・空き家を購入の際(R4)、事業説明を行ったところ、購入をやめてほしいと言われた。

○今後の開催方法等について

- ・オンラインとの併用開催を望む声が多くありました。
- ・「市町職員にも来てもらってほしい」といったお声も、多くいただいております。次年度は、さらに市町との連携を密に、開催していきたいと考えています。